

# 聴く

日曜インタビュー

第2次世界大戦当時、県内各地の軍の施設や軍需工場が戦争の遂行を支えた。全体像は明らかでなく、熊本地震による遺構の被災もあり、調査や保存が急がれている。くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表の高谷和生さん(63)に現状と課題を聞いた。

——県内の戦争関連の遺跡・遺構の概要を教えてください  
陸軍や海軍の飛行場関連施設や航空機などの生産施設、砲台など、私たちが確認した限りで723件が点在しています。戦局が悪化し、本土決戦を想定してできた飛行場もありです。これらは農地などを接収し、居住者を立ち退かせて造られました。特攻機などの出撃の拠点になり、空襲の標的にもなりました。戦争の実

## 事実語る戦争遺産保存を

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表 高谷 和生さん(63)

相を象徴的に表す存在です。

——熊本地震の影響は

菊池市の指定有形文化財の陸軍花房飛行場(菊池飛行場)跡の給水塔では、外部を

目視で確認しただけでも表面のモルタルがはがれ落ちています。近くに民家や市道もあるので、構造を調べて危険性が確認されれば、解体もやむを得ないかもしれません。

——解体例もありますか

熊本市南区城南町の陸軍限庄飛行場跡に残る油倉庫と弾薬庫のうち、地震で傾くなどした油倉庫は昨年10月に解体されました。震災遺産として残すことも市に求めました

が、現在の所有者が被災され、更地にした跡に自宅を再建することになったのです。

窓や扉など約20点の部材は市が保管しています。

弾薬庫はコンクリート造りで被害が軽かった。所有者が保存を望んでおり、私たちが文化財指定を求めています。

——文化財としての価値は

限庄飛行場は戦争末期、沖縄に上陸した米軍を攻撃する特攻機の中継基地や、本土決戦に備えた特攻機の待機にも使われた重要な施設でしたが、現存する建物は弾薬庫のみ。練習機の機銃の弾薬を収めていたようです。飛行場の

弾薬庫としても県内で残るのはここだけです。

——昨夏は熊本市東区の郊外で米軍が投下した焼夷弾の不発弾が見つかりました

現場はのどかな地域で、「なぜこんな所に落ちたのか」と思われた人もいます。かと思われた人もいます。当時、熊本市南部には航空機メーカーの下請けの町工場が集まっていた。

米軍は九州への上陸を念頭に、南九州を入念に空襲していました。不発弾一つからも戦争の姿が見えてきます。

——戦争遺産の保存・保護は進んでいますか

1931年の満州事変から

45年の終戦までの戦争遺跡で文化財に指定・登録されているのは、県内では菊池飛行場給水塔のほか、陸軍人吉秘匿飛行場1号木製掩体壕(あさぎり町登録文化財)があります。熊本市にはありません。

歴史資料として残す発想が、行政担当者にはまだ根付いていないようです。

——将来に向けた戦争遺産の意義をどう考えますか  
戦争体験者の証言を聞けなくなる時代が来ます。戦争とはどのようなものかをリアルに考えるための事実を、戦争遺産は教えてくれます。

(田中久絵)



県内の戦争遺跡の現状を語る「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」代表の高谷和生さん＝玉名市立願寺

たかたに・かずお 1954年、玉名市生まれ。県教育委員会文化課、県立学校勤務を経て、2016年から、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表兼事務局長を務める。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークは2014年、前身のグループが組織替えして発足した。現在は約50人。今年2月には、戦前の写真を集めたリーフレット「菊池飛行場を復活する」を発行する。7・8月には、戦時中の絵本や日用品などの資料を集めた展示会や講演会を計画している。戦争体験者が少なくなるなか、体験や記憶の継承に向けて、熊本空襲などの調査・記録や資料館づくりなどもめざしている。